月津校下のまいぶんマニュアル

★☆月津校下ってこんなところ！☆★

地形／月津校下は、加賀三湖（今江潟・木場潟・柴山潟）にかこまれた**台地**（月津台地）にあります。

現在は今江潟全体と柴山潟の３分の２は埋め立てられています。

　この台地上には、縄文時代のむらや古墳時代の古墳、飛鳥時代～平安時代の渡来人やものづくり集団のむらなど、たくさんの遺跡があります。

地形の説明

年表に登場する遺跡１／念仏林遺跡（四丁町）

おもな時代は**縄文時代**

教科書の小単元は**「縄文のむらから古墳のくにへ」**。

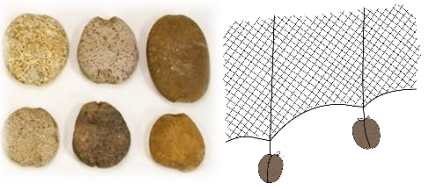
ポイント①＝**約５０００年前**の縄文時代の**むら**

ポイント②＝縄文時代の海面上昇で、近くに**漁**や**貝採り**ができる**入り江**ができ、背後には狩りの獲物が生息する**山地**が広がります。

ポイント③＝遺跡の場所には、現在**公立小松大学粟津キャンパス**があります。

月津校下の遺跡

たて穴住居のあと



あみ漁につかう石器（おもり）

狩りにつかう石器（やじり）

出土した縄文土器

年表に登場する遺跡２／額見町遺跡（額見町）

おもな時代は**飛鳥時代～平安時代**（遺跡の全体では**鎌倉時代**まで）

ポイント①＝飛鳥時代～平安時代の**渡来人**の**むら**

ポイント②＝渡来人たちは**オンドル**という暖房機能付きの朝鮮半島系カマド（火をたく施設）をもつ**たて穴住居**に住み、木場校下や粟津校下などの丘陵部で**製陶**（やきものづくり）や**製鉄**（鉄づくり）を行っていました。

ポイント③＝遺跡からはやきものを焼いたり、鉄を加工したりするための道具や、加工された鉄の道具がたくさん見つかっています。

※普及冊子「こまつ原始・古代のものづくり」もご覧ください。

WEB 版ものづくり冊子

たちならぶ建物のあと

オンドル状のカマド